



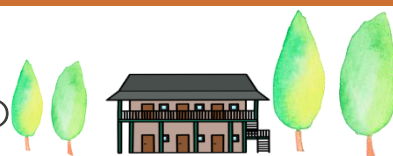
地域リハビリテーション支援センターだより

(神奈川県リハビリテーション支援センター)

2023年度 地域リハビリテーション連携構築推進事業

In 秦野

(秦野市本町公民館)



グループホームでの生活支援を長く続けるために

昨年度に引き続き、秦野市の障害福祉グループホーム従事者向けに研修会を実施しました。今年度からは市内のグループホームネットワークが立ち上がり、従事者の方々から障害の理解や権利擁護について学びたいという声を受け、研修会を開催しました。

8月22日（火）

第1部 よい支援につながるための障害理解について



第1部では、知的障害者施設の職員や精神障害の認定看護師から、知的障害と精神障害に関する理解と対応に焦点を当てた講演を行いました。また、障害者権利擁護センターの代表者からは権利擁護についての説明を行いました。

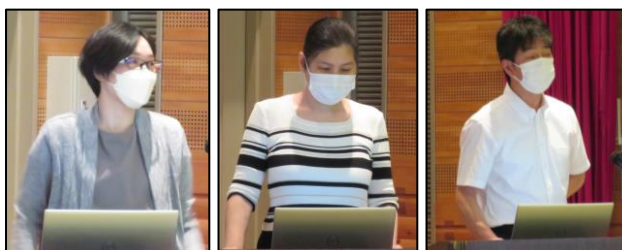
参加者からは、障害理解の重要性や権利擁護に関する認識が深まったとの声が多く寄せられました。

(左から)

七沢学園 生活支援員 川島 志織 氏

厚木看護専門学校 看護師 五十嵐 一美 氏

秦野市障害者権利擁護センターライツはだの 阿部 泰 氏



参加者の声

*障害や病気の辛さ、服薬、そして支援者の理解と対応がいかに大切かを理解し、利用者が安心して生活できる環境を築いていきたいと思いました。

*生活場面での権利擁護について、正解がない状況に挑戦しているというお話が印象に残りました。

8月29日（火）

第2部 長くグループホームでの生活を続けるために



第2部では、より長くグループホームでの生活を続けるというテーマに焦点を当て、精神科作業療法士の講演を行いました。また後半では参加者を数グループに分けて、『どうしたら利用者が長く生活できるか』というテーマで、意見交換とグループディスカッションを行いました。

参加者の声

*グループホームの世話人の方々が抱える悩みがよく理解できました。情報共有や支援に関わる孤立感が鮮明に感じられました。

*利用者の方への質問や言葉には意識しているがうまくいかないことが多かったが、今回専門的な内容を聞くことができてすごく学びでした。統合失調症の概略が良く理解できた、知的障害、自閉症の方の支援にも通じる部分があると思いました。



神奈川県立保健福祉大学
OT 杉村 直哉 氏

1部、2部、そしてオンライン参加者を含め、110名を超える方々にご参加いただきました。

現在、秦野市に限らず障害福祉グループホームは増加傾向にありますが、人材不足、利用者への対応方法、利用者の高齢化や機能低下、連絡や情報共有といったさまざまな課題が皆様から指摘されました。

これらの問題は簡単に解決できるものではありませんが、地域リハビリテーション支援センターとして、多職種での課題解決や情報提供に関して、今後も皆様と協力していきたいと考えています。

今回のグループディスカッションでいただいた意見について、湘南西部自立支援協議会に報告することを参加者の皆様にお約束いたしました。皆様の声が、県内外のグループホームの従事者や関係者の間で共通の課題として認識され、共有されることを期待しています。
(小川 淳)



リハビリテーション



門研修



8.26(土) 高次脳機能障がいセミナー 理解編 『基本的な理解とその対応』

医療・福祉・行政関係者・患者/家族等を対象に、見えづらく分かりづらいと言われる高次脳機能障がいについて、医療・心理・生活・社会参加・制度利用といった側面から、それぞれの支援方法について学びました。

受講生の声

障がいについて改めて確認すると共に講義を参考に粘り強く支援していきたいと思いました。



神奈川リハ病院 医師 寺嶋 咲稀、作業療法士 湯浅 良介
公認心理師 山岸 すみ子、コーディネーター 永井 喜子

9.9(土) 脳血管障がいの評価と治療

片麻痺の歩行をテーマに、評価の視点と治療技術を、講義やハンドリングを通して学びました。1日を通して実技の時間が多く、実際に体験（体感）することでより理解につながる研修でした。

受講生の声

今までハンドリングを用いて、自分の力で患者の運動を変えるという意識を持っていたが、感覚入力で運動を変えるという新しい視点を知ることができ、明日からの臨床に活かせそうと思った。



Fリハビリテーション平塚
PT 藤井 誉行 氏

9.13(水) ポジショニング入門 ～24時間で姿勢援助を考える～

一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク

代表理事 下元 佳子 氏

ケアに関わる全ての方に知っていただきたい『ケアファーストステップ』に基づき、ベッド上ポジショニングにおける安定かつリラックスできる姿勢の支援方法や、姿勢の整え方、耐圧分散を促すクッションの適切な配置方法など、翌日から実践できる内容の講義を、実技を中心に学びました。

受講生の声

ポジショニングを行うにあたり介助者間のスキルを一定にするための手順を学びました。実技、体験、講義すべてがわかりやすかったです！



9.16(土) ADL支援と知識の実践

ADL（日常生活動作）支援を行う上で必要な知識や理論を発達の観点から学びました。動作分析や治療的誘導の方法などを実技を通して体験し、臨床現場で実践できる内容の研修でした。

受講生の声

ADLを支援するうえで身体図式や体幹機能の重要性を理解でき、現場でも評価や支援する際に活用していきたいと思いました。

発達や環境と結び付けてADLを考える事がなかったので、とても参考になりました。



JCHO 東京高輪病院
OT 松田 哲也 氏



第50回 国際福祉機器展 2023年 9月27日～29日

今年は、9月27日（水）から29日（金）の3日間、東京ビッグサイト東展示ホール の大きな会場で、リアル展が開催されました。併せて、Web展は8月28日（月）から10月30日（月）まで開催されています。

H.C.R.50 周年を記念し、「クリエイティブな未来を拓く」をテーマに、ユニバーサルデザインファッションショー「NextUD JAPAN 2023」やパラスポーツ等体験企画「エンジョイアクティブゾーン “Gotcha!”」、アーティストの実演を含めた「いのち輝くアート展」など特別企画がありました。また、日本、欧州、米国の福祉機器開発の現状をふまえた国際シンポジウムの開催や、コミュニティアクティビティを通じた住民共創のまちづくりなど福祉関連情報のトレンドをふまえたセミナーもあり、参加企業380社、累計入場者数113,139人に達し、例年以上に充実した内容でした。

ちょっと気になる？！ 福祉機器のご紹介

座位保持ベルト

フットマーク株式会社（写真はHPより引用）

「車椅子座位姿勢を安楽に保持できることを支援する」をコンセプトに開発されたこの製品は、**骨盤**をベルトで保持することで、車椅子上でよく見かけのお尻の前滑りや骨盤が後傾して猫背になるという姿勢の崩れを予防する構造になっています。また、前胸部を肩ベルトのみで支えることで、車のシートベルトよりも締め付け感が少なく、適度な姿勢変換が可能です。これにより、安楽に正しい姿勢を保持することができます。

『身体拘束にあたるのでは』と思う方もいるかもしれませんが、姿勢が崩れにくいというメリットとどちらを優先するかを考慮することも大切です。当センターでも、車椅子上での姿勢の崩れに関する問い合わせは絶えず寄せられています。無償のデモ品貸し出しがあるそうなので、まずは検討から始めてみることをお勧めします。（有馬 一伸）

モダンリッチスタイル

カワムラサイクル（写真は現地にて許可を得て撮影）

来春発売予定 のチルトリクライニング車椅子です。通常、リクライニングさせるとお尻が前方にすべって姿勢が崩れることがありますが、この車椅子では全く**ずれを感じません**でした。

介護保険のレンタルも予定されているようなので、リクライニング機構が必要な方に検討されてはいかがでしょうか。

（有馬 一伸）



福祉機器ではないですが・・・。
性別や障害等の垣根を超えた**ファッションショー**が開催されました。

斬新で、車いすに乗っている方や障がいのある方でも着脱のしやすいデザインのものが多々紹介されていました。

障がいがあってもおしゃれを楽しみたい方は参考にしていても良いのではないかと思います。（高次脳機能支援室 奥山 知子）

（写真はHPより引用）



日本高次脳機能障害友の会

全国大会2023 in東京

に参加して

(高次脳機能支援室 瀧澤 学)

2023年10月1日（日）に、都内永田町のJAカンファレンスホールにて「NPO法人日本高次脳機能障害友の会 全国大会in東京」が開催されました。テーマは「高次脳機能障害支援法制定に向けて」で、慈恵医科大第三病院リハビリテーション科の渡邊先生と、家族会理事長の片岡氏による講演が行われました。

続いて、
衆議院議員：田畑氏
参議院議員：山本氏
厚生労働省：小林課長
国立障害者リハセンター顧問：深津氏
友の会理事長：片岡氏 による
シンポジウムの司会を瀧澤が務めました。



片岡氏からの「高次脳機能障害支援普及事業によって障害理解は進んだが、今後は社会生活における障害理解が要される」との発言を受け、田畑氏からは「国・自治体・医療関係者等が誰一人取りこぼしのない制度や支援体制構築が必要」、山本氏からは「発達障害や医療的ケア児は法制化によって予算や支援体制の確保がなされた。高次脳機能障害支援は地域格差を打破するための法的整備が肝要」とのコメントがありました。深津氏からの「様々な取り組みを行ってきたが、小児に関して充実できなかったことが心残り」の思いを受け、現在精神障害支援の範疇で取り組まれている高次脳機能障害支援が医療、福祉、教育、就労、社会参加といった幅広い分野で連携しつつ支援体制を構築するためにも、高次脳機能障害支援法制定が必要であり、今後の議員立法に向けて当事者/家族/支援者が一丸となって取り組むことが確認されました。

今後も、法制局による法の起草、超党派議員への働きかけ、議員による法案の発議等の山場がいくつも残っていますが、家族会とともに協力していきたいと考えています。

令和5年
8月～9月末までの
専門相談実績

	神経・筋疾患	脊髄障害	脳血管障害	骨関節疾患	後天性脳損傷(除くGVA)	脳性麻痺	知的障害	視覚障害	その他(切 断・加齢等)	不明	合計
県央	10(1)	1	5				21(11)	1			38(12)
湘南東部								3			3
湘南西部	1		2			1		3	1		8
県西			2				4				6
横須賀・三浦			2					3		1	6
横浜市	1		2	1			1	7			12
川崎市								2			2
相模原市			1				1	3	1		6
県外				2							2
合計	12(1)	1	14	3		1	27(11)	22	2	1	83(12)

	障害者更生 相談所	居宅介護 支援事業所	市町村	地域包括	本人・家族	障害者相談 支援事業所	障害者施設	医療機関	訪問看護 事業所	保健福祉 事務所	高齢者施設	訪問介護 事業所	教育機関	その他	合計
県央		3		1	4(1)		24(11)	3	1	2					38(12)
湘南東部					2			1							3
湘南西部					4	1				1	2				8
県西								1	1	4					6
横須賀・三浦				4	2										6
横浜市				2	9			1							12
川崎市					1	1									2
相模原市			1		4		1								6
県外					2										2
合計		3	1	7	28(1)	2	25(11)	6	2	7	2				83(12)

11・12月の専門研修(予定)

()の数字は訪問数

知的障がいのある方への生活支援	11月14日(火)	神奈川県総合リハ事業団
在宅における循環機能の低下について ～ステージに応じた運動の工夫とリスク管理の考え方～	11月25日(土)	プロミティあつぎ
排泄ケアの知識と実践	11月27日(月)	神奈川県総合リハ事業団
高次脳機能障がいセミナー 実務編	12月 9日(土)	プロミティあつぎ

研修会は、約2ヶ月前から募集を開始しています。詳しくは、ホームページをご確認ください。

編集後記

記録的な猛暑もやっと過ぎ去り、
外出しやすい季節になりました。
週末に孫と近所を散歩すること
が一番の楽しみです。(有馬)

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢516
神奈川県総合リハビリテーション事業団
地域リハビリテーション支援センター
☎ 046-249-2602
FAX 046-249-2601